



教材教具の工夫について紹介します

自作教具「ポリバケツドラム」の活用

学習指導要領解説・自立活動編には『環境の把握』の「保有する感覚の活用に関すること」について、他の項目との関連例の一つとして「音を聞く」、「自分の手を動かして音を出す」のように視覚と聴覚を協調させたり、手の運動を協調させたりする指導が示されています。

教具としての「太鼓（ドラム）」は、張られた皮が振動し、周囲の空気を押しやり引いたりするダイナミックな音波が発生するため、聴覚と触覚を合わせた感覚で伝わり、視線を向けたり、自ら叩いて鳴らそうとしたりする主体的な運動を引き出しやすい教具と言えます。

学校の音楽室には大小複数の和太鼓やドラム（洋楽の太鼓）がありますが、数に限りがあったり、大きく重かったりして、全てのニーズに答えきれない場合があります。そこで、本校では、ポリバケツを使った軽くて、ステージ発表にも使用できる音量や振動も兼ね備えた「ポリバケツドラム」を自作して活用しています。重さが軽い分、生徒に合わせてドラムの下に台座を敷くなどの、環境設定や設置が容易という利点があります。

右上の写真の生徒は、教師と一緒にバチを持ち、音を感じています。ポリバケツドラムの重さが軽いため仰臥位姿勢にも容易に角度調整でき、音のみならずバチを持った手に伝わる振動を感じて、驚きなどの様々な気持ちを表情で表出しています。

右下の写真の生徒は、学習発表会（きらり祭）のステージ発表で、複数の生徒と一緒に打楽器演奏を披露しました。自分用のポリバケツドラムで毎日練習を積み重ねた結果、自信をもって演奏することができました。

作り方

- ①ポリバケツの開口部分に直径を描くようにビニールテープ（幅50mm）をピンと張って固定します。
- ②放射状にテープを増やしていきます。その際、各ビニールテープの張りが十分か確認しながら貼っていくのがコツです。
- ③ラインテープがポリバケツの開口部を全て覆ったら完成です。

①



②



③



実践紹介⑥～準ずる各教科等の学習グループ～

【小学部】音楽「リコーダーのひびきをかんとろう」

3年生になると、ソプラノリコーダー（以下、リコーダー）の学習が始まります。今回は、児童のリコーダーをやりたい！という意欲に応えるための工夫について紹介します。まず、実態把握をしました。児童は、手が小さく指が細いため、力が弱く動きが少しぎこちないようでした。一個の音あなを塞ぐと次の音あなまで指が届きづらく、あなが塞ぎきれない様子も見られました。そこで、目標を「リコーダーで練習曲（ラ、シのみでの構成曲）を吹く」と設定し、補助具を活用し練習することにしました。運指は操作しやすい指を使うことを児童と確認しました。使用したものは、「ふえピタ®」というソプラノリコーダー用演奏補助シールです。「ふえピタ®」を貼付すると、ソフトな感触で音あなを感じやすく、弱い力でも音あなを塞ぎやすくなり、一音ずつ音を出せるようになりました。練習を重ねた結果、二音（ラ、シ）をスムーズに吹くことができるようになり、教師と練習曲を吹くことができました。児童は吹けるようになったことを喜び、「またやりたい！」と意欲をもったので、「わらべうた」にも挑戦していきます。



ラの音を出しています



シの音を出しています



「ふえピタ®」の主要素材は、スチレン系エラストマーというゴムに近い弾性のある素材です

参考 IDEA-PARK（アイディア・パーク） 商品名「ふえピタ®」（文責 山本 泉子）

教育専門監のコーナー

【日々の学習にわくわくとのもめるように】

○生活のリズムを生み出す音楽

【生活の区切りを生み出す音楽】

一日の生活を見通していけるような、活動の始まりと終わりでの音楽による場面の切り換え。

【活動を意識づける音楽】

活動の展開に気づき、先を見通していけるような、ゆったりとした音楽やアップテンポな音楽による雰囲気づくり。

【自分の思いを伝えられるように】

○コミュニケーションとしての音楽

【表現を育む音楽】

関わりを受け止め、気持ちや要求を相手に表現できるような、音楽による表現への誘い。

【学習内容を伝える音楽】

季節や情景、自然の様子を感じることができるような、音楽による学習の展開。

【生活を豊かにする音楽】

日々の生活に楽しみを見出し、生活にわくわくや安らぎを与える、音楽による遊びの提案。

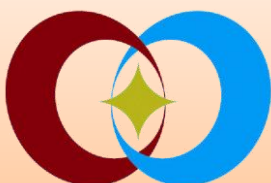
参考 「肢体不自由特別支援学校における音楽の活用に関する考察」
高橋結・新井英靖 茨城大学教育実践研究 36(2017), 207-217

《ともにまなぶ》

高等部の学習発表、イントロが流れると、生徒はメロディーをよく聴き、タイミング良くリズムを打ち始めます。伴奏に合わせ、リズムカルに音を重ねていきます。周囲の音に耳を澄ませ、息を合わせ、音を奏でます。大切にしているのは“心地よさ”と“役割”。生徒は、様々な音色とリズムを聴き、心躍らせたり、楽器の演奏を楽しんだり、活動に心地よさを感じながら演奏に加わります。自分のパートを確実に演奏することで、「参加できた」「私はここにいたいんだ」「仲間がいる」と、誰かに必要とされる喜びを感じていきます。

美しい音楽を聴くと感動し、楽しい音楽を聴くと元気になる、落ち着いた音楽を聴くと心が癒されます。一人一人の演奏を支える楽器の工夫により仲間との演奏に加わり、自分なりの表現を見つけしていきます。様々な楽器の音色が心をほぐし、豊かな感性と創造的な表現力を育てていきます。自分たちの音を聴き、感じ取り、思いをもち、その思いで音を奏でます。本校の子ども達は、小学部から様々な音楽に触れ、演奏を重ねる中で、ともに学ぶ友達と関わり、自分達の表現を身に付けていきます。

〈文責：二階堂 悟〉



教頭 兜森 宏征 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ヶ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018（889）8573 FAX：018（889）8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>